

立命館中学校・高等学校

アーティスティックスイミング日本代表の熊谷日奈多さん(高3)が活躍

4月29日(月・祝)、アーティスティックスイミング(AS) JAPAN OPEN 2019の「FREE COMBINATION」「HIGHLIGHT ROUTINE」の2部門に、熊谷日奈多さん(高3)が日本代表チームとして出場し、チームの優勝に貢献。また熊谷さんは、7月に韓国で開催された「アーティスティックスイミング世界選手権」の日本代表メンバーに選出され、同じく代表メンバーの乾友紀子さん(経営学部2013卒)とともに「Women Team Free Combination」部門に出場しました。

立命館宇治中学校・高等学校

硬式野球部が「夏の甲子園」に出場!

8月、立命館宇治高校硬式野球部が第101回全国高校野球選手権大会(「夏の甲子園」)に京都代表として出場。甲子園出場は2015年春の選抜大会出場以来4年ぶり、夏の大会では宇治高校時代の1982年以来37年ぶりとなりました。初戦は秋田中央高校(秋田県代表)と対戦、1対0で勝利し甲子園での歴史的一勝をあげました。続く、2回戦で敗れはしましたが、準優勝校となった強豪・星稜高校(石川県代表)を相手に粘り強さを見せ、善戦しました。



立命館慶祥中学校・高等学校

弁論研究部「第33回“北方領土を考える”高校生弁論大会」最優秀賞・外務大臣賞受賞、首相官邸・外務省表敬訪問

1月19日(土)、札幌市にて開催された北方領土復帰期成同盟主催「第33回“北方領土を考える”高校生弁論大会」において、弁論研究部の佐野果淑さん(当時:高1)が、最優秀賞・外務大臣賞を受賞。3月14日(木)に首相官邸、翌日15日(金)に外務省を表敬訪問しました。また、慶祥中高の応募総数が通算で20回を越えたため、学校として外務大臣より感謝状を贈呈されました。



立命館守山中学校・高等学校

パラ・パワーリフティング世界大会で第2位

7月12日(金)~20日(土)、カザフスタンでパラ・パワーリフティングの世界大会「Nur-Sultan 2019 World Para Powerlifting Championships (2019ヌルスルタン世界選手権大会)」が開催され、ジュニア・女子67kg級に出場した森崎可林さん(高2)が第2位の成績を収めました。森崎さんは、昨年12月に開催された「第18回全日本パラ・パワーリフティング選手権大会」の女子の部で優勝。今年2月の「全日本パラ・パワーリフティング国際招待選手権」では日本新記録となる55キロの試技に成功しています。



立命館小学校

正頭英和・立命館小学校英語科教諭が文部科学大臣・副大臣を訪問 浮島・文部科学副大臣が小学校をご視察

6月3日(月)、正頭英和・立命館小学校英語科教諭が文部科学省を訪問し、正頭教諭がノミネートされた教育界のノーベル賞といわれる「グローバル・ティーチャー賞」や、これまでにノミネートされた3名(正頭教諭含む)が中心となって進めている「日本版グローバル・ティーチャー賞」の設立について説明しました。7月1日(月)には、浮島智子・文部科学副大臣が立命館小学校を視察。ICT科・ロボティクス科の授業を見学いただき、これからの教育についての意見交換を行いました。



ご寄付のお礼とご報告



分林記念館(大阪いばらきキャンパス)

BOOKS FOR BOOKS

~立命館の本活~

読み終えた本の買取額を寄付金として活用し、新しい図書の購入に役立てる古本募金活動を2013年度から実施しています。

実績 294,116冊(6,126,526円) 6,052名 2013年4月~2019年7月末

●活用事例

2013年10月	立命館小学校	1~6年生の必読書(43冊)
2014年8月	立命館大学	衣笠・BKC図書館 英語多読本・日本語学習教材(307冊)
2015年2月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書(34冊)
2017年3月	立命館大学	OIC図書館 学生アンケートを募り選定した図書(470冊)
2018年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書(31冊)
2019年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書(41冊)



なお、購入された本には、「古本募金により集まった寄付で購入した」ことが分かるシールを貼付。手に取った学生・生徒・児童たちに、ご支援いただいた方々の想いが少しでも届いてほしいという願いを込めています。

2019年4月、 立命館大学にグローバル 教養学部を開設！

Global Liberal Arts



グローバル教養学部では、立命館大学とオーストラリア国立大学 (ANU) との学びを立体的に組み合わせ、学生が両キャンパスで学び、卒業時に本学 (グローバル教養学) と ANU (アジア太平洋学) の二つの学位を取得できるように設計されています。学部全体で海外大学とのデュアル・ディグリー・プログラムを展開する試みは日本初、新たな時代を切り拓く学部となります。

本学部では、ANUと共通する仕組みで、学生一人ひとりに対し、きめ細かな授業と学修支援を行います。具体的には、講義形式の授業に加え、少人数グループでディスカッションやプレゼンテーションを行い学びを深める「tutorial」という授業展開を計画しています。学期が始まれば、学生は授業の予復習時間も含め、相当の時間を勉学に割くことになります。グローバル教養学部の最大の特長は、徹底した個別学修相談により学びの動機づけを行い、また学びの進度に応じた支援・アドバイスを日常的に行うことにあります。

このようにして、学生自らが課題を発見し、解決し、様々な文化・社会的背景をもった人々と協働しながら、新しい知の化学反応を起こす力を養います。グローバル教養学部は、グローバル時代において自分の未来を切り拓く鍵を手に入れるための“エキサイティングで挑戦的な営みの場”となります。

オーストラリア国立大学

オーストラリア国立大学 (ANU) は首都キャンベラにある世界有数の大学です。首都にあることから、オーストラリア政府とも関係が深く、国民のための知の資源として特別な立場を築くなど、独自の歴史を誇ります。オーストラリア国立大学は教育と研究の両方で卓越した成果を生み出してきました。そのため、現代の複雑な課題を理解し、その対処に洞察力や独創性を発揮できる同校の学生は、世界中から求められる人材となっています。大学のランキングを表す複数の国際指標によれば、オーストラリア国立大学は全豪トップクラス、世界でも上位に格付けされる大学として知られています。“QS 世界大学ランキング2018-19”では、総合評価として世界24位にランクインしています。



4年間の学習イメージ (すべての科目を英語で学びます)

LEARNING SCHEDULE		アカデミック/イングリッシュハードル		ANU 科目の受講には、GLAで定めた語学基準・成績基準を満たしている必要があります。				at RU	at ANU
Year	Semester	1	2	3	4	5	6	7	8
April Enrollment	Courses	RU		RU + ANU		ANU		RU + ANU	
	Semester	1	2	3	4	5	6	7	8
September Enrollment	Courses	RU		RU + ANU	ANU		RU + ANU		
	Semester	1	2	3	4	5	6	7	8

4月入学の場合、1、2、4年目は大阪いばらきキャンパス (OIC) で、3年目はANUで授業を受けます。
2年目と4年目は、本学部とANUの授業が半々で開講され、ANUの教員による授業をOICで受講することができます。
なお、本学で9月から学修をスタートする場合は、履修の流れが異なります。

TOPIC

大阪いばらきキャンパスに「分林記念館」が完成！

2019年9月、大阪いばらきキャンパスに分林記念館が完成し、竣工式を挙行了しました。
分林記念館は、グローバル教養学部を中心とした国内学生と国際学生の混住型国際寮機能を兼ね備えた国際交流拠点です。館内は寮室200室をはじめ、日本庭園・茶室・能舞台 (多目的ホール) などの日本文化に触れることのできる空間、共同学習のためのスペースやカフェなど、OICで学ぶすべての学生・院生のキャンパスライフを豊かにする場となります。



ごあいさつ

平素は立命館学園の教育研究に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
立命館は、皆様のご期待にお応えできる学園であり続けるために、
児童・生徒・学生が新しい価値を創造できる人材に成長するための土台を提供し続けていきます。
また、国際的通用性のある世界水準の教育、特色ある研究拠点の創造に努め、
日本・アジアそして世界の未来をつくる「立命館らしい」児童・生徒・学生を育てることで、
教育機関としての役割を果たしてまいります。
今後とも温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

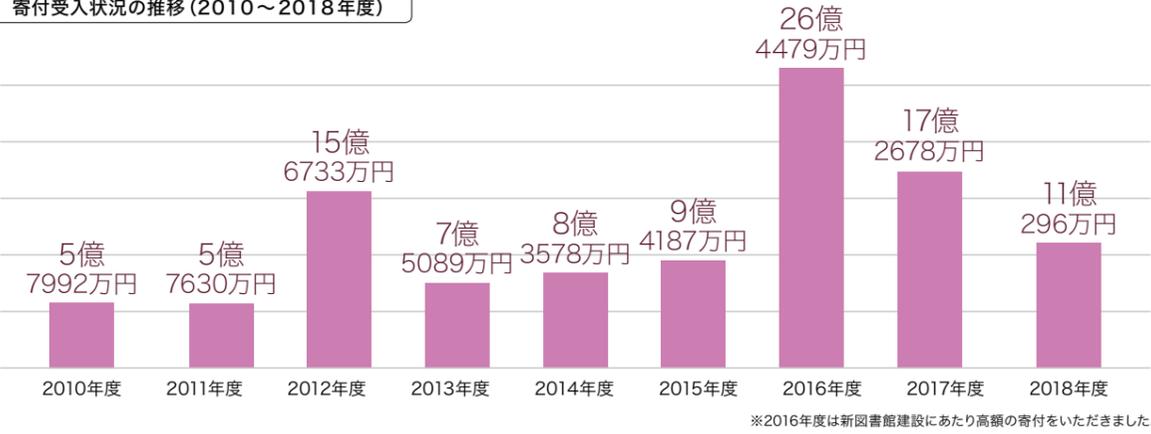
学校法人立命館 理事長 森島 朋三

2018年度実績報告

皆様からいただきましたご支援についてご報告させていただきます。2018年度は、総額 11億円の温かいご支援を頂戴しました。

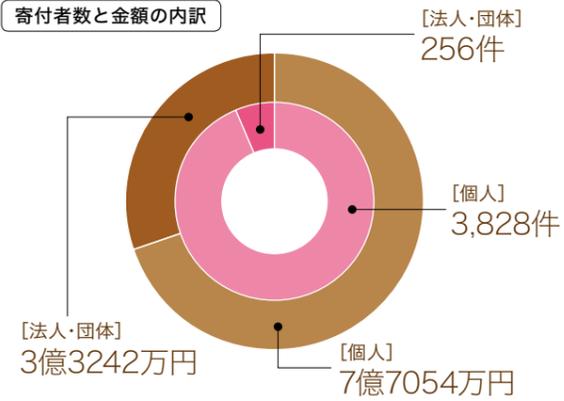
[寄付金額の推移]

寄付受入状況の推移 (2010～2018年度)

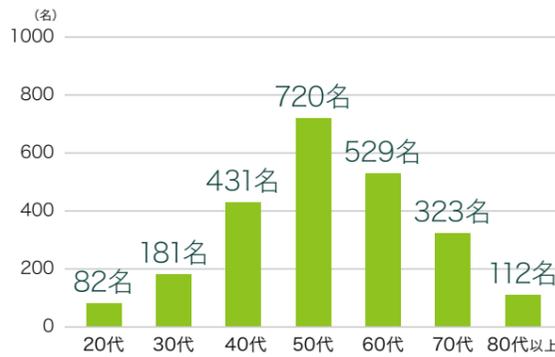


[2018年度 寄付受入状況]

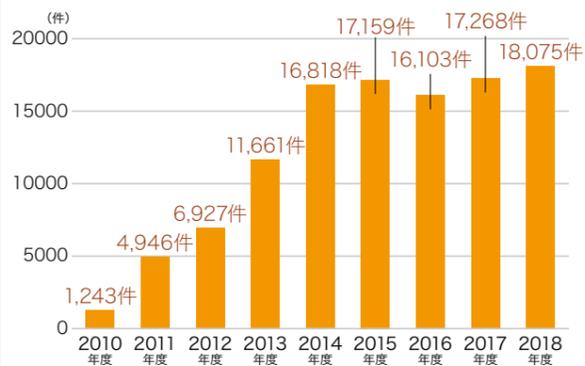
寄付者数と金額の内訳



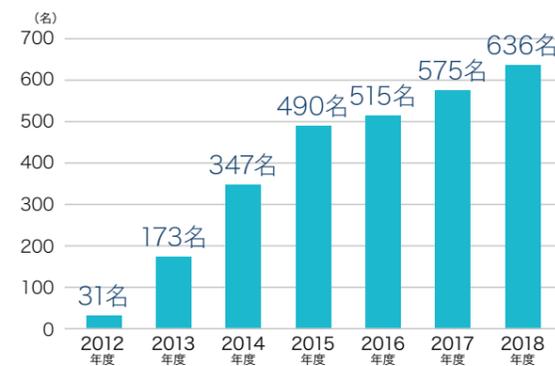
寄付者の年齢分布 (立命館大学)



個人寄付の広がり



継続的な寄付の広がり



学生の活躍

■ボート部

女子舵手なしペア6連覇! 女子軽量級舵手なしペア初優勝!

5月23日(木)～26日(日)、埼玉県にて「第97回全日本選手権大会」が開催され、高校生から社会人までの296チーム893名が参加しました。高野晃帆さん(スポーツ健康科学部4回生)と鈴木伶奈さん(経済学部1回生)が「女子舵手なしペア」で6連覇、伊関法子さん(経済学部4回生)と木戸ひかりさん(スポーツ健康科学部4回生)が「女子軽量級舵手なしペア」で初優勝を飾りました。



■女子陸上競技部

塩見綾乃さんが 「2019日本学生陸上競技個人選手権大会」 女子400m・女子800m 優勝! 「第103回日本陸上競技選手権大会」 女子800M 3位入賞!

塩見綾乃さん(経済学部2回生)が、6月7日(金)～9日(日)、神奈川県にて開催された「2019日本学生陸上競技個人選手権大会」において、女子400mと女子800mで優勝、2冠を達成しました。また、6月27日(木)～30日(日)、博多にて開催された「第103回日本陸上競技選手権大会」において女子800mで3位入賞を果たしました。なお、同大会で小池祐貴さん(慶祥高2014卒)は、男子100mで3位、男子200mで2位に輝きました。



写真提供：月刊陸上競技

■7人制ラグビー(セブンズ)

藤井健太郎さんが ユニバーシアード夏季競技大会で金メダル獲得!

7月2日(火)～14日(日)、イタリア・ナポリで「第30回ユニバーシアード夏季競技大会2019」が開催されました。7人制ラグビー(セブンズ)に藤井健太郎さん(経済学部2回生)が出場、日本代表初めての金メダル獲得に貢献しました。

■ホッケー部(女子)

「第38回全日本大学ホッケー王座決定戦」優勝!

7月4日(木)～7日(日)、大阪いばらきキャンパスのOICフィールドで開催された「第38回全日本大学ホッケー王座決定戦」において、ホッケー部(女子)が15年ぶり2回目の優勝に輝きました。決勝戦は、昨年準優勝・山梨学院大学と対戦。序盤から激しい攻防が続くなか、立命館が先制点を獲得、1-0で勝利しました。



■情報理工学部プロジェクト団体Ri-one(リオン)

「RoboCup2019世界大会」2連覇!

7月2日(火)～8日(月)、オーストラリアにおいて、ロボットと人工知能の世界大会「RoboCup2019世界大会」が開催されました。約1週間におよぶ競技会や学術発表を経て、「レスキューシミュレーションリーグテクニカルチャレンジ部門」において、見事、大会2連覇を果たしました。



■地域貢献活動

体育会2団体の学生が びわこ・くさつキャンパス近隣小学校の 登校見守り活動を実施

6月11日(火)、びわこ・くさつキャンパス近隣地域の南笠東小学校付近で、体育会の学生が「スクールガード(児童の登校見守り)活動」を行いました。今年3年目となる南笠東学区の地域見守り隊の活動では、アメリカンフットボール部・男子バスケットボール部が子どもたちの安全を見守っています。学生たちが通学路の交差点や歩道を通る子どもたちに大きな声で挨拶をすると、元気よく返事があり、笑顔のふれあいが見られました。



グローバル化の取り組みと実績

海外留学派遣者数 全国1位

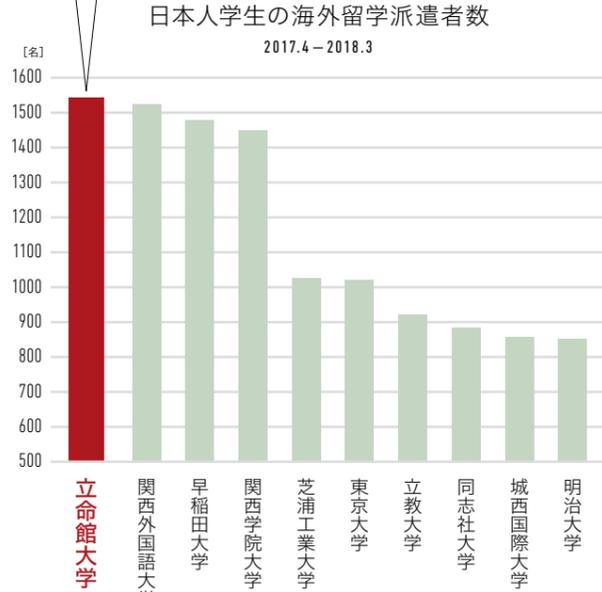
立命館大学は、独立行政法人日本学生支援機構が発表した「平成29年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」において、日本人学生の海外派遣者数で初の全国第1位(1,543名)になりました。

本学では、2014年に採択された「スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)」において、「グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成」を事業目標として位置づけ、教育・研究のさらなる高度化・国際化に取り組んでいます。日本人の海外派遣については、プリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)への派遣プログラム(UBC-AIP)や異文化理解セミナーなど30年近く行ってきた留学プログラムに加え、近年では「ASEANで学ぶ国際Project Based Learning」、1週間のフィールドスタディを東南アジアで実施する「Global Fieldwork Project」など、多様な新規プログラムを展開しています。

文科省「大学の世界展開力強化事業」で最高のS評価

文学部の「東アジア人文学リーダー養成のための日中韓協働運営移動キャンパス」(通称:キャンパスアジア・プログラム)、は、本学(日本/京都)、東西女学校(韓国/釜山)、広東外語外貿大学(中国/広州)の3大学の共同運営の下、大学2年次・3年次に本学以外の2大学への留学を経験するという他に類を見ないプログラム内容で、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」(平成28年度採択分)の中間評価において、S評価(最高評価)を獲得しました。今後も、総合大学としての強みを活かし、日本人学生の国際通用性を高めるべく様々な留学プログラムを通じて多数の学生を海外へ派遣し、魅力あるプログラムの開発、留学前後の学習支援の拡充などに取り組めます。

1,543名
全国第1位



独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)「平成29年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」(平成31年1月)より作成

同調査では、2017年4月1日から2018年3月31日を対象に、日本国内の大学等と諸外国の大学等との学生交流に関する協定等に基づき、教育又は研究等を目的として海外の大学等に留学する日本人学生数を調査しています。



立命館SDGs推進本部を設置

総長 MESSAGE

世界に共通する課題に向き合い、世界とつながりチャレンジする学園に

立命館学園は、昨年夏、2030年に向けたビジョンワードとして、「挑戦をもっと自由に~ Challenge your mind Change our Future」を策定しました。先を見通すことが困難な時代であるからこそ、学園の学生・生徒・児童はもとより教職員、校友(卒業生)に至るまで、それぞれの立場から社会のあり方を考え、平和な社会の実現に向けて果敢に自由に挑戦する、その決意を広く宣言したものです。この新たなビジョンのもと、世界に共通する課題解決に向けて、SDGs(持続可能な開発目標)を推進していきます。

SDGsは、環境・貧困・紛争・教育・食糧など、持続可能な社会を実現するために私たちが取り組むべき課題を提示しています。持続可能な未来に向けて、教育研究機関として様々な課題に対してチャレンジすることが問われているのです。そして、その理念は、「教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的發展に貢献する」という立命館憲章の理念をまさに体現するものです。

これまでも立命館は、人類社会における様々な課題に、積極的に取り組んできました。そのような取り組みを、世界共通の課題とされているSDGsの枠組みで捉えなおし、これまで個々に展開されてきたことを学園として組織的に支援する点が特徴です。学生・生徒・児童・教職員から自主的・主体的に展開されるチャレンジを、学園がSDGsと位置付け支援するという形は、「立命館ならではの」と言えるでしょう。

立命館は、SDGsの達成とともに、先進国日本が抱える社会問題の解決に向けて、世界や地域社会とつながり、積極的に貢献を果たしてまいります。そして、変化する社会のなかで、立命館の使命とは何か、私たちにできる貢献とは何かについて、常に探求を続け、「世界の中で語られる学園、世界が語る学園」となるために、力を尽くしたいと思います。

2019年5月
学校法人立命館総長 仲谷 善雄



立命館SDGsホームページ開設

本ページは、立命館学園が取り組む多様なSDGsに関する取り組みを紹介するサイトです。SDGsの17の目標ごとに、立命館の教員・学生・生徒の活動をご覧ください。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/sdgs>

